

手賀沼水生植物船上調査—マコモ、ヒメガマの分布状況—

美しい手賀沼を愛する市民の連合会 顧問 小倉 久子

1. 目的

手賀沼の在来抽水植物（ヒメガマ、マコモ、ヨシ）の分布状況を確認し、県の外来水生植物駆除作業を見学するため、船上からの目視調査を行った。

2. 日時

日時：11月25日（月） 9：30～11：50

調査エリア：手賀沼全域、手賀川

調査項目：ナガエ、オオバナ、マコモ、ヒメガマ、ヨシ等

使用船舶：みずすまし号 古川船長、渋谷乗務員

参加：県立中央博 林紀男、滋賀県 中井克樹、県水質保全課 田口、県柏土木 湯浅、伊藤、
いであ(株) 弓木麻記子 美手連 八畝、小倉、加藤、半沢、船津、竹内 計14名

3. スケジュール

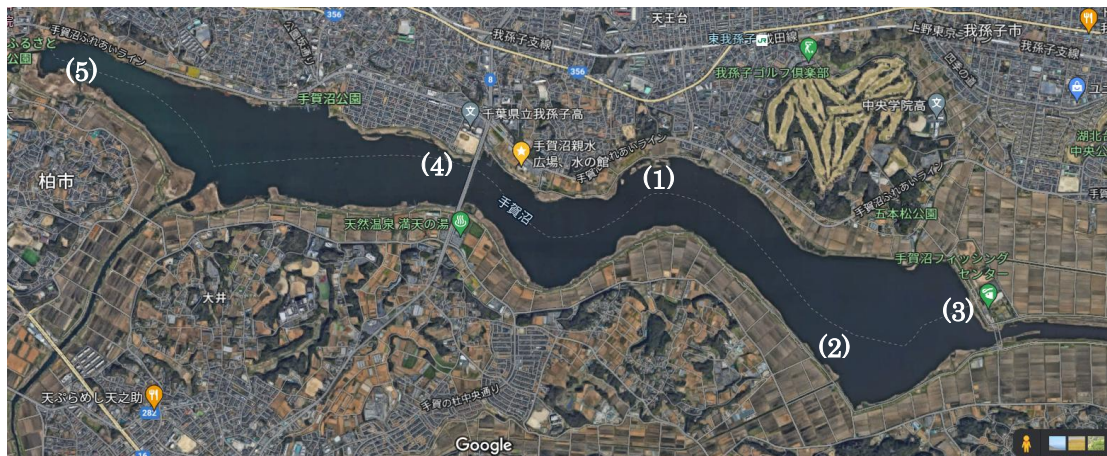
9:15 集合 手賀沼親水広場 第2駐車場

9:30 乗船（我孫子手賀沼漁協棧橋）出航

手賀沼周回（手賀沼東側北岸⇒手賀川⇒東側南岸⇒県駆除現場（染井入落）⇒西側北岸
⇒西側南岸）

11:50 帰航・下船（我孫子手賀沼漁協棧橋）

4. 調査地点図



5. 調査結果

(1) 東側北岸 高野山新田植生帯(既設)



植生帯の外側はきれいに駆除されたが、内側は手つかず状態だった。

(2) 東側南岸の県駆除現場の様子

まず、ハーベスターにより大まかに駆除を行い、その後、人手により丁寧に仕上げをしていた。



(3) 手賀沼フィッシングセンター地先

2020年の写真と比べて、ヒメガマの激減している様子がよくわかる。



(4) 手賀沼西側北岸 若松第5樋門

手賀沼西側北岸の若松植生帯と岸の間は、2024年度秋に駆除が行われ、7月の調査時と比較して見違えるほどであった。



(5) 北千葉導水放流口付近



在来水草の株を残して駆除を行っても、その株の中にナガエ・オオバナの根が入り込んでいるため、在来水草がナガエ・オオバナの再繁茂源となっている。再繁茂を防ぐために、在来水草（特にヨシ）と一緒に刈り取ってしまうことも、検討する余地がある。